

[制作記録]

“めぐる水”制作と展示

"Circulation of water" works and exhibition

土井宏二

DOI Koji

はじめに

ひとつの疑問が私の頭をよぎる。それは、何気なく物事を見ていた時であったり、風景を見ていた時、書物を読んでいた時、何かをしていた時など、日常の様々な瞬間に訪れる。私にとって世界が開かれる一瞬である。それまで、何の変哲もなく存在していたものたちが、私に新しい世界を見せてくれるのである。世界を感じ、世界を知る。そこから制作が始まり、形が生まれる。そして、私の心の震えが彫刻を通して、観る者へ共振できればと願う。そのような形、彫刻ができないものかと考える。本展覧のテーマは、「めぐる水」である。水は、世界に潤いや力をもたらし生き生きとさせる。世界に存在する水に想いを馳せて、その「水」を形にする試みである。

素材について

私の制作は、可塑性のある素材を使用する。粘土とワックスである。可塑性のあるこれらの素材が、私には性に合っている。機械工具、道具などを使わず、直に手、指で素材に触れ成形する。強いて言えば、小さい頃の土いじり、粘土遊びの、得も言えぬ手に残る感触と、その記憶がそうさせているのかもしれない。これらの素材は、それぞれ焼成されテラコッタとなり、鑄造されブロンズになるが、表面には元の素材の美しい表情が残される。

展示について

会場となったギャラリーは、大きく二つの部屋に

分かれている。その両室を最大限活用し、一つの展示を考えた。二つの空間を作品と作品でつなぐ構成を行った。自然世界における水の物語である。展覧の主となる作品は、ギャラリー入口から奥の部屋へ向かい、順に、天から地に降る雨、流れる水、行き着き溢れんばかりに広がる澄んだ水の量塊、そして再び天へと観る者を誘う。全体の空間を意識した展示ではあるが、各々の作品は、一点一点独立して存在する様に配慮し制作している。また展覧の中心となる作品は、前室正面の壁周辺に展示した作品と強く関係を暗示する作品となっている。これらの大きな作品を中心に関連する作品を展示した。

おわりに

今回の展示は、1992年以来18年ぶりの個展である。この間は、発表を公募団体展、コンクール展等で行ってきた。作品の質にもよるが、近年、前述のような他者と共に自身の作品を一点発表する、というかたちでは、なかなか自己の考えを表現しきれないと感じ、ある程度の空間を使い、自由に展示できる個展を行った。ギャラリーの空間は、それぞれに個性を持っていて会場ごとに制約もある。けれども、今回は時間をかけて準備ができたため、概ね納得のいく展示ができたと思う。しかし、広い空間を埋めなければ、という想いが強すぎたため、小品を多く陳列し過ぎたと思う。この点については反省している。また、作品全般にわたって、素材と表現されているものとの関係に今後の制作の課題と、研究の方向性を見出したと考える。

(どい・こうじ 彫刻)



左手のいづみ 2010 テラコッタ 34×188×127cm



静かなたたずまい 2010 テラコッタ 24×72×590cm

2010.10.30-11.14 於ギャラリー一点(金沢市入江)